

# 協力隊がゆく ④ 新人隊員が決まりました！！



話し、農業であれば家族との時間も大切にできるのではないかと思いました。そして、ピオーネの味が忘れられなかったこともあり、ぶどうの新規就農研修が整っ

た奥様方から頂いたピオーネは、食べるとたちまち仕事の疲れが吹き飛び、びっくりする程おいしかったことを覚えています。仕事や住む場所について妻と相談し、農業であれば家族との時間も大切にできるのではないかと思いました。そして、ピオーネの味が忘れられなかったこともあり、ぶどうの新規就農研修が整っ



にしがき ようへい 西垣 陽平 隊員



委嘱状交付式

はじめまして。11月に地域おこし協力隊(有漢地域担当)に着任しました、西垣陽平です。

高梁市を知ったのは3年前、前職の出張で1カ月ほど高梁市を訪れていたときです。

迫力のある岩壁沿いに流れる穏やかな川景色が山水画のよう

きれいなところだと感じたのが第一印象でした。町の人も温かくフレンドリーで、一緒に働いて

いた奥様方から頂いたピオーネは、食べるとたちまち仕事の疲れが吹

き飛び、びっくりする程おいしかったことを覚えています。

仕事や住む場所について妻と相談し、農業であれば家族との時間

も大切にできるのではないかと思

いました。そして、ピオーネの味が忘れられなかったこともあ

り、ぶどうの新規就農研修が整っ

た奥様方から頂いたピオーネは、食

べるとたちまち仕事の疲れが吹き

飛び、びっくりする程おいしかった

ことを覚えています。

ている高梁市でぶどう農家としての就農を検討していました。そんなとき、「ITに関連した活動」を行う地域おこし協力隊の募集があることを知りました。地域とのつながりづくりや今後の仕事について幅広く考えるために、協力隊はい経験になると確信しました。インターネットを活用した有漢町のPR・有漢町産品の通信販売サービスを整備して、少しでも多くの人に有漢町を身近に感じてもらう、生産者と消費者が直接つながるきっかけづくりをしたいと考えています。

最後になりましたが、趣味は昭和歌謡やフォークソングのギター弾き語りです。年齢は29歳ですが、当時のメロディーや詩情豊かな歌詞がどこか懐かしく、歌うと気持ちが良いです。良い歌があればぜひ教えてください。

## 高梁2025 “地域医療はまちづくり” ⑦

いい ひとり ひとり ひとり  
11月30日(良い看取り・看取られ)は「人生会議の日」  
もしものときのために「人生会議」始めてみませんか

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病いやけがをすることがあります。命の危険が迫った状態になると、約70%の人が、医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。もしものときのために、自分が望む医療やケアについて前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みを「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」と呼びます。

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会では、最期まで自分らしく過ごすために、元気なうちから人生の最期をどう迎えたいか考え、話し合っていくための取り組みを進めています。地域のサロンなどにお伺いし、人生会議や在宅医療などについてお話をさせていただき出前講座を行っていますので、ぜひご利用ください。



話し合いの仕方(例)



市ホームページ「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

介護医療連携課 ☎(21) 0304 / (一社) 高梁医師会 ☎(22) 3801



## 高梁川流域圏の紙面交流

倉敷市ウェブサイト



～倉敷市の日本遺産を学んでみよう～

## 日本遺産インフォメーション

倉敷市の3つの日本遺産ストーリー「一輪の綿花から始まる倉敷物語」、「北前船寄港地の繁栄の物語」、「古代吉備の遺産と桃太郎の物語」の概要やストーリーを構成する文化財を、多言語対応の音声ガイド付きパネルや動画で分かりやすく紹介する「日本遺産インフォメーション」を、倉敷市内3カ所の施設に設置しています。関連地域が一目で分かる地図や、各地域の特徴も紹介しています。詳しくは、倉敷市ウェブサイトで確認してください。



倉敷物語館



ストーリーに関わる繊維製品や民芸品を展示・紹介しています。  
住所 倉敷市阿知2-23-18

むかし下津井回船問屋



船乗りたちが伝えた下津井節なども紹介しています。  
住所 倉敷市下津井1-7-23

旧木家住宅(西爽亭)



玉島の歴史や、商取引により華開いた文化も紹介しています。  
住所 倉敷市玉島3-8-25

倉敷市企画経営室日本遺産推進室 ☎086(426)3018



## 「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋— ③

日本遺産に認定された「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋—のストーリーを構成する文化財を紹介します。

### 高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区 (国選定 重要伝統的建造物群保存地区)

吉備高原上に忽然と現れる「赤い町並み」、かつて国内屈指の弁柄と銅生産で繁栄した鉢山町・吹屋です。中でも江戸時代中期から吹屋で生産された赤色顔料の弁柄は全国に流通し、社寺などの建築や九谷焼・伊万里焼や輪島塗など、我が国を代表する工芸品を鮮やかに彩り、日本のイメージカラーである「ジャパンレッド」を創出しました。



吹屋の町並み

成羽と東城を結んだ旧吹屋往來は、弁柄・銅・鉄の産物や米・炭などの輸送で賑わい、千枚地区から下谷地区に至る約1.5kmの道沿いには、各種の問屋や小売商を営む家々が軒を連ねました。それらの建物は、赤褐色の瓦・土壁・海鼠壁・弁柄塗りの格子で飾られ、「赤い町並み」という独特の景観を醸し出し、訪れる多くの人々を今もなお魅了しています。



明治30年頃の吹屋の町並み

しかし、昭和40年代には銅山閉山・弁柄廃業に伴う深刻な過疎化の進行という社会変動の波を受け、町並みの存続も危ぶまれましたが、地元の人々の熱心な取り組みにより、昭和49年に「岡山県ふるさと村」の指定、同52年には全国で8番目(県内初)の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。「赤い町並み」は現在も良好に残され、「ジャパンレッド」を創出した往時の繁栄をしのばせています。

高梁市日本遺産推進協議会事務局(日本遺産・歴まち推進室) ☎(21) 0257